

体験談

自宅で姉を看取って

青柳節子さん(南二日町)

南二日町にお住まいの青柳節子さんは、姉・月子さんを自宅で介護し、その最期を自宅で看取られました。

節子さん、そしてお二人をサポートした介護支援専門員・杉山好子さんに、その体験や思いを伺いました。



最期まで一緒にいられた幸せと サポートしてもらった方たちの支えで一步一步前へ

姉との別れは悲しいものですが、自宅で最期まで一緒にいられた幸せと、サポートしてもらった方たちの支えを感じながら一步一步前に進んでいくのが、今の自分への課題であり、最愛の姉が残してくれた財産だと思っています。

ケアマネジャーの勧めでショートステイも利用しましたが、姉本人の希望もあり、週に3日ほどデイサービスを利用し、私自身も自分の時間を持たせてもらうことができました。自宅には主治医の先生・看護師さんにも来てもらいとても心強く、また、歯科や鍼灸の先生にも来てもらい、チームで関わることで姉を自宅で看取っていくことができたのかなと思います。とはいえ、自宅での生活も終わりは来ます。令和2年の秋の朝、「もうダメかな」との予感あたり、抱きしめた腕の中で姉は旅立ちました。

姉の介護が

始まったのは7年前、

私が今まで続けていた仕事を終えたことを伝えた年の春のこと。地域包括支援センターにケアマネジャーを紹介してもらい、介護保険でベッド

を借り、自宅での生活が始まりました。友人の母親が使っていた車いすを借り、天気の良い日には近所の散歩にも出かけました。

ケアマネジャーの勧めでショートステイも

利用しましたが、姉本人の希望もあり、週に

3日ほどデイサービスを利用し、私自身も

自分の時間を持たせてもらうことができました。

自宅には主治医の先生・看護師さんにも

来てもらいとても心強く、また、歯科や鍼灸

の先生にも来てもらい、チームで関わることで

姉を自宅で看取っていくことができたのかなと

思います。とはいえ、自宅での生活も終わりは

来ます。令和2年の秋の朝、「もうダメかな」との予感あたり、抱きしめた腕の中で姉は旅立ちました。



青柳節子さん
(南二日町)

本人の希望も介護者の時間も



杉山好子 介護支援専門員
(ホームケアサービスこころ)

できる限りお姉さんを自宅で看取たいという節子さんのサポートをするため、まずは介護ベッドのレンタル、ご自宅のトイレの住宅改修を行いました。その後、自宅での入浴が難しくなってきたお姉さんの希望をかなえつつ、介護者の節子さんの時間を持つため、調整を行いました。自宅と一緒にいるときには、おしゃべりをしたり、歌を歌ったりと、仲の良いお二人がとても楽しそうでした。介護保険だけでなく、近所の人や友人のサポートを受けながら、最期までご自宅で過ごされたお二人を支援でき、本当によかったです。

相談窓口



「最期まで自宅で過ごしたい」を叶えるために

～チームで支える三島のプロフェッショナル～

市では、自宅で看取ることなどへの不安を取り除き、本人・家族の希望を叶えるため、さまざまな職種が在宅医療・介護のサポートをしています。

在宅医療の
相談窓口

三島市医療介護連携センター に相談ください

医療や介護についての相談を幅広く受けています。

相談時間

月～金曜日 午前9時30分～午後4時
※祝日、8月15日～17日、
12月29日～1月3日は休み

ところ

南本町4・31（三島市医師会館2階）

問合せ

☎ 957・8151 FAX 957・3015

相談事例

- ・コロナ禍で入院中や施設入所中に面会制限がかかり、家族と自由に会えない。「家に帰りたい」または「家で最期を迎えさせてあげたい」という希望を叶えるために、往診医を探してほしい。
- ・自力で通院できなくなってしまった。
- ・退院するけど、今後の医療が心配… など

◆ 他人ごとと思わず、望む晩年の共有を ◆

実際に最期まで家で介護されたご家族からは、「思い切った家に連れて来てよかった。」「本人の思い通りにできた。」といった感想が多く聞かれています。

他人ごとと思わず、元気なうちから、自分が望む、晩年を過ごしたい場所や受けたい医療について、家族や親しい人と話し合い共有しましょう。

現在入院していて、この先どうするべきか迷っていたり、在宅療養が可能か思案している方がいたら、気軽に相談に来てください。在宅療養を始める糸口になれば幸いです。



杉山恵美子 在宅医療コーディネーター
(医療介護連携センター)

在宅医療の
強い味方

訪問看護師 からのメッセージ

◆ 最期のその時を
不安なく穏やかに ◆

眞野ゆうき看護師

(三島市医師会訪問看護
ステーション)

訪問看護ステーションでは病気や障がいを持ちながら自宅で生活する方のお手伝いをしています。ご自宅に伺い、病状の観察や医師の指示による処置、食事・排泄の介助、入浴や清拭のほか、家族への相談や指導、精神的ケアなどを行っています。

最近多くなっている在宅での看取りでは、自然な経過で死にゆく本人を見守り、本人と家族を支えるケアに努めます。がんを患っている場合には、痛みや息苦しさが緩和できるようにサポートし、ご家族との有意義な時間が作れるように心がけています。

往診医をはじめ、ケアマネジャーや訪問介護、訪問入浴、福祉用具事業所など連携し、最期のその時を、本人やご家族にとって不安がなく穏やかに過ごせるようお手伝いします。